資料名　「海のゆりかご」「命の旅」「持続可能な社会とは」　（光村図書６年ｐ.67～「生命の尊さ」「自然愛護」）

１．本教材について

本教材は内容項目Ｄ「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」に関わるものである。「海のゆりかご」は人間の生活を支える自然環境、「命の旅」は自然の中の食の連鎖に関するものであり、「持続可能な社会とは」は、ESD（Education for Sustainable Development　持続可能な開発のための教育）の基本理念に基づいたものになっている。どれも大変良い教材である。教科書ではこの三つの教材を一つのセットにして考えているので、ここでも１セットとして考えたい。なお学習指導要領(小学校)の総則は「持続可能な社会の創り手となることが期待される児童」という表現でESD を標榜している。

また、社会科では、５年生で本教材と関連する「自然環境」「公害」などについて学ぶことになっている。

２．本教材を扱う際に、特に注意すべきだと考えたこと

社会科や理科の学習と結びつけながら本教材を扱うことが重要である。人間のくらしは自然環境によって支えられている。そこで自然環境の保全は重要だが、社会環境も重要である。高度成長期の公害は人間の生活に深刻な被害をもたらした。経済活動は豊かな暮らしを支えているが、自然を破壊し、社会に格差を作り出す作用もある。さらに国同士の紛争は自然を破壊し、社会に混乱をもたらす。こうした総合的な課題を考えるために「持続可能な社会をめざした学習」が必要になることに注意したい。

なお、持続可能、といった場合、その単位は国家を超えた「地球」である。自然環境は、国境を越え、地球規模ですべてがつながっているからである。また、持続可能な社会を作っていくのは一人一人の市民である。国家の利害を超え、地球の持続可能性のためにさまざまな活動に取り組んでいくことが必要であることに特に注意したい。

４．指導過程(3 時間程度の計画)

1 回目「海のゆりかごーアマモの再生ー」

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導入	教科書の最初にある「まどさんからのてがみ」を読む。まどさんは「みなさんのようなこどもたちが、はやくおとなになって、こうしたことをなおしてほしい」と言っているが、何をどのように「なおしてほしい」のか、読み取る。	5 年生で学習した「一ふみ十年」「宇宙から見えたもの」「地球の温暖化を知ろう」などを復習することで導入としても良い。
展開	岡山の親せきが送ってくれるおいしいカキを食べた桃子の感想について考えてみよう。 Q 岡山の人は「なんだかずるいよ」と感じたのはなぜだろう。 お父さんが「そんな簡単なことかな」といった意味を考えてみよう。 Q 岡山はどうして有数のカキの産地なのだろうか。 ある時期、かきなどが取れる量が減ってしまったのはなぜだろうか。 Q カキが再び採れるようになるには、だれのどういう努力が必要だったのだろうか。 アマモ場が再生するとどうしてカキが採れるようになるのだろうか。	カキが豊富に採れるためには豊かな自然環境が必要であることを社会科での学習を復習しながら押さえたい。 高度成長期に大きな自然破壊が行われたことを社会科での学習を復習しながら押さえたい。
まとめ	新聞記事を読んで「地域の持続可能性」という言葉の意味を考えてみよう。 時間をとって考えをまとめ、発表する。	新聞記事は字が小さいので、拡大して配布しても良い。 発表は時間の許す限り行う。

参考資料

教育出版『小学社会 5 下、6 下』東京書籍『新しい社会 5 下、6 下』日本文教出版『小学社会 5 下、6 下』光村出版『社会５，６』(以上 2015 年～19 年)

教育出版『小学社会 5、6』東京書籍『新しい社会 5 下、6 政治・国際編』日本文教出版『小学社会 5、6』(以上 2020 年～)

2回目「命の旅」

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導入	前回授業「海のゆりかご―アマモの再生―」を簡単に復習する。 アマモの「も」は漢字で書くと藻だが、「あま」はどういう漢字を書くのだろう。	甘藻という字を当てている。
展 開	「命の旅」を読んで自然界ではどんなことが起きているのか、理解しよう。 Q サケやマスはどうして川を上ってくるのだろう。※ Q この川で産まれた魚たちが上ってくるとあるが、どうして自分の産まれた場所がわかるのだろう。 Q 人間を命の旅の中に入れて考えたらどうなるだろうか。 Q人間が命の旅に入ることで自然界に起こる困ったことをあげてみよう。 グループに分かれてできるだけたくさんあげてみよう。 Q「持続可能な社会」という言葉の意味を考えてみよう。	生態系を表す資料を配付。 「命の旅」との関係を説明。 社会科の教科書にあればそれを参照する。 人間が「自然環境」から大きな恵みを受けていることを押さえるとともに、自然破壊（乱獲・汚染・温暖化など）を考えさせたい。 「海のゆりかご」にあった「つぼ網漁」（教科書に掲載している新聞記事の中にある）について考えるよう促す。
まとめ	教科書で紹介されている、自然を大切にする活動には、身近にどんなものがあるか考えてみよう。 食事の時「いただきます」という意味について考えてみよう。	

※たとえば https://www.aquas5.com/knowledge/30/001789.php のサイトに「鮭（さけ）はなぜ生まれた川に帰ってくるのか」の問いに以下のような解説・回答を載せています。

「広い広い外洋に出た鮭はなぜ母川回帰することができるのでしょうか？これには諸説ありますが、生まれた川のにおいを覚えているという説が有力です。鼻詰めされた鮭は生まれた川へ帰れなくなったという実験結果もあります。川のにおいとは、数十種類のアミノ酸の組成によって決まるそうです。ただし、遠く離れた外洋から故郷の川のにおいを嗅ぎわけることは不可能に近いと思われるので、他の方法も併用していると考えられています。太陽コンパスを利用する説、磁気を感知する説、海流に乗り移動する説などがありますが、はっきりしたことはわかっていません。未だにまだ多くの謎に包まれているのです。」

3回目　「持続可能な社会とは」

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導入	今の地球に何人住んでいるか（70億人余り）。1950年は？（25億人）。1850年は？（12億人）。 地球上で繁栄を続ける人類、しかし、このまま繁栄し続けることができるのだろうか。	現在、人間は自然から大きな恵みを受けているが、受けられなくなる可能性があることを説明。
展開	教科書に書かれている問題を一つ取り上げて、考えてみよう。社会科や理科の学習を参考にしよう。 ▲ゴミ問題(例示) ・学校で出しているゴミについて調べてみよう。 ・1週間でどんなゴミがどのくらい出るのか。 ・水、電気、ガスなど資源やエネルギーの使用量。 ・これらの資源やエネルギーがどこでつくられているのか。 ・給食ではどのくらいの食品ロスが出ているか。 次にゴミを減らすためにはどうしたらよいか、考えてみよう。グループで考え、どんなことをしたらよいか、アイディアを出し、全体に発表する。	社会科教科書を見てゴミ問題を復習する。 p.69「持続可能な社会を目ざして私たちが問題を解決するための工夫」を読んで考えてみよう。
まとめ	学校だけではなく、地域で行動できることはないか、考えることを促してまとめとする。	授業でとり上げなかった問題についても考えて行こうと呼びかける。

参考文献　『環境教育がわかる事典』日本生態系協会　柏書房　2001年
『地球市民を育む学習　』ディビッド・セルビー他　明石書店　1997年